

ノーリツのサステナビリティ

第5回ノーリツステークホルダーダイアログ

2019年11月に第5回ノーリツステークホルダーダイアログを開催しました。有識者を招き昨年度のダイアログでご指摘いただいた課題の進捗報告に対する評価や新たなご指摘をいただきました。ノーリツグループが持続的に成長していくための活発な意見交換がなされ、経営課題の設定においても参考にしています。



第5回ノーリツステークホルダーダイアログの様子

対話のテーマ

- 事業再構築
- 環境戦略
- 人材マネジメント
- マテリアリティの再整理 など

2019年ダイアログ出席者

ファシリテーター	宮永 雅好 様 東京理科大学大学院 経営学研究科 教授
ステークホルダー代表	村上 芽 様 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター/ ESGリサーチセンター マネジャー 松原 稔 様 りそな銀行 アセットマネジメント部 責任投資グループ グループリーダー 土本 晃代 様 Institution for a Global Society株式会社 管理部 人事責任者

※在籍は当時

ノーリツ	國井 総一郎 代表取締役社長 腹巻 知 取締役 兼 専務執行役員 国内事業本部 本部長 廣澤 正峰 取締役 兼 専務執行役員 国際事業本部 本部長 竹中 昌之 取締役 兼 常務執行役員 経営管理本部 本部長 高橋 秀明 取締役 (社外) 池田 英礼 執行役員 経営企画部 部長 蒔田 潤也 経営管理本部 人事部 部長 鶴亀 俊之 経営管理本部 コーポレートコミュニケーション部 部長
------	--

※在籍は当時



東京理科大学大学院 経営学研究科 教授 宮永 雅好 様

ノーリツ事業再構築とQ+ESG経営に向けて

今回で5回目となる株式会社ノーリツ ステークホルダーダイアログは、ノーリツの国内事業の再構築を踏まえた中長期の価値創造がメインテーマとなりました。今回は高橋社外取締役にもご出席いただき、社内外の参加者から様々な意見が出されました。真剣な議論が交わされたことで、ノーリツの目指す姿に向けた課題が明確になったと思います。

今後のノーリツのQ+ESG経営を進化させるためには、経済的側面での再生が急務であり、事業再構築は必須といえます。また、今後の組織の成長と社会的価値の創造に向けては環境戦略と人材戦略に力点を置きつつ、重要な目標の明確化が必要となるため、マテリアリティの再整理についても対話させていただきました。

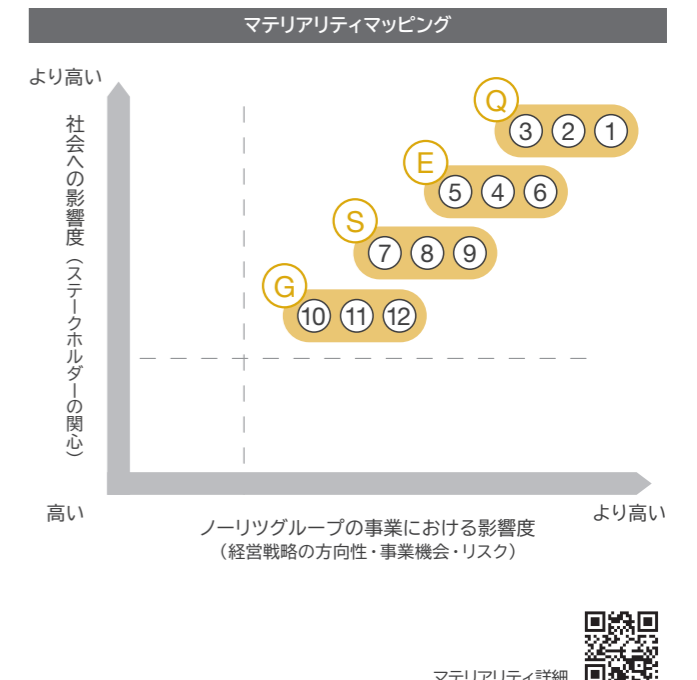
それぞれの戦略の具体的な中身と戦術・施策については、さらに詳細に詰めていく必要がありますが、方向性をしっかりと決めた以上は具体的なKPIを設定して、その成果を測定評価することでQ+ESG経営のPDCAサイクルを経営の根幹に据えていくことが大切です。2020年がノーリツの新たな時代への幕開けの年となるよう願っています。

マテリアリティの再整理

持続可能なグローバル目標であるSDGsや、ステークホルダーの要請や期待に対応すべく、私たちの価値創造の源泉である「Q+ESG」に分類し、中期経営計画「Vプラン20」期間中

マテリアリティの分類とテーマ		
分類	テーマ	関連ページ
Q Quality	① 消費者安全	P18
	② 消費者満足	P20
	③ 安全・安心な製品の供給	P21 P22
E Environment	④ 低炭素社会・循環型社会の構築	
	⑤ 環境負荷物質管理の推進	P23
	⑥ 環境配慮商品の開発・普及	P24
S Society	⑦ 人権尊重	
	⑧ 企業風土改革	P25
	⑨ サプライチェーンマネジメント (CSR調達)	P26
G Governance	⑩ コーポレートガバナンスの充実	P27
	⑪ リスクマネジメントシステムの確立	P32
	⑫ コンプライアンスの遵守	

のマテリアリティを再整理しました。第5回ノーリツステークホルダーダイアログでも意見を交換し、4分野12テーマ33課題のKPIを設定しました。



マテリアリティ詳細



マテリアリティのPDCAマネジメント体制

2007年より代表取締役社長が委員長を務めるCSR委員会を設置し開催しています。2019年からは毎月開催される取締役会や経営会議の場でもCSRに関する課題の審議・決定を行うことで経営とCSRの融合を実践するとともに、取り組みの迅速化を図っています。

4月と10月に開催するCSR委員会ではマテリアリティのKPI進捗について確認し、PDCAマネジメントを推進しています。

